

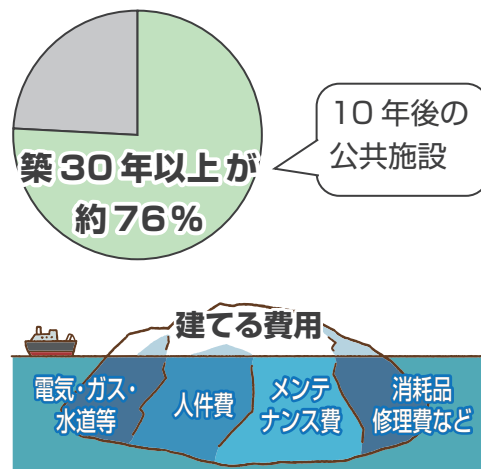


～ 資産マネジメント第3期実施方針の概要 ～

川崎市の公共施設を取り巻く現状と課題

市の公共施設の老朽化が進みます

- 市の公共施設は、10年後には約76%が築30年以上に達することから、施設機能の低下や修繕費用の増大など老朽化に伴う問題が懸念されています。
- また、建築時の費用は氷山の一角で、その後に維持管理費や事業運営費など、より多くの費用が必要となる状況です。



人口減少への転換が見込まれます

- 市の人口は令和12(2030)年頃における約160.5万人をピークに、その後は減少過程への移行が想定される状況です。
- 人口減少に伴い、1人あたり m^2 数(公共施設の床面積 ÷ 人口)が増加し、公共施設を維持するための市民1人あたりの費用負担も増大が見込まれる状況です。

川崎市の将来人口推計



以上を踏まえると、現状の公共施設をそのまま維持し続けることは非常に困難です

市民負担を変えずに、市民サービスの質の維持・向上を図るためには、
当面の人口増加に対応しつつ、
公共施設の床面積を増やさない取組を行うことが必要です

資産マネジメントの取組を進めます

- 将来世代の負担が重ならないよう、公共施設の保有総量を適切に管理することが必要です。
- 資産マネジメント第3期実施方針を策定し、「機能重視」の考え方に基づく取組と、資産保有の最適化を重点的に推進します。
- これまで重点的に取り組んでいた施設の長寿命化については、資産保有の最適化を踏まえた上で取組を継続します。



～ 資産マネジメント第3期実施方針の概要 ～

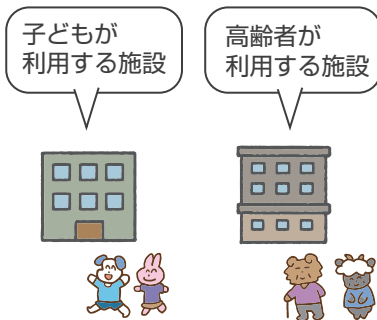
基本的考え方及び取組



みんなでもっとうまく施設を使えないかな？

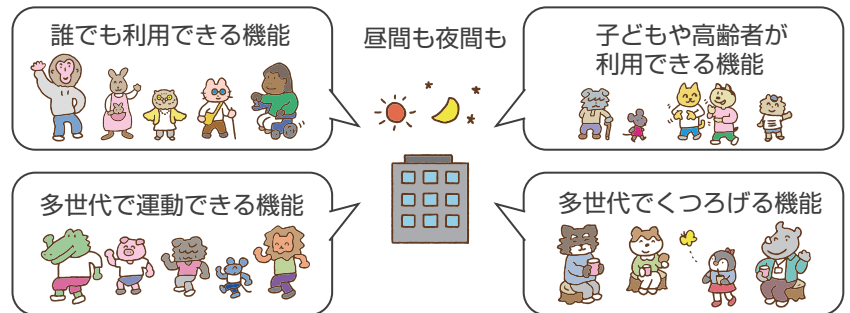
従来の考え方

特定の**目的別、対象者別**に
施設を整備



「機能重視」の考え方

施設が持つ**機能（提供するサービス）**に着目し、
市民ニーズ等を把握した上で施設を整備



利用状況や将来の利用想定等を踏まえ**機能のあり方の整理**を行い、施設の**複合化**や**多目的化**等の手法（※）を用いることにより、**施設の適正配置**を図るものであり、主に次の取組を検討します。

● 地域の利用状況を踏まえた資産保有の最適化検討

公共施設、人口動態、地域課題などの**地域ごとの状況**を踏まえた**施設の適正配置**を行い、**質の高い市民サービスを安定的に提供**するための取組を検討します。

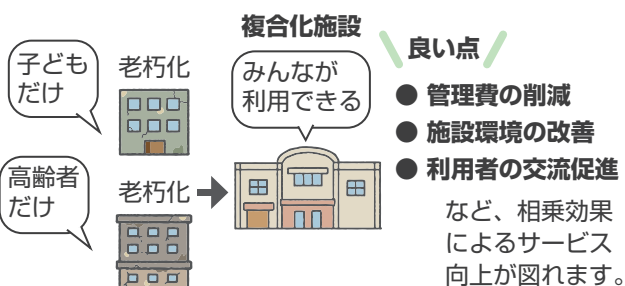
● 機能ごとの資産保有の最適化検討

ホール施設の適正配置や**学校プールの最適運用**など、同一機能を有している様々な**施設機能の適正配置**を行い、**質の高い市民サービスを安定的に提供**するための取組を検討します。

（※）施設の複合化、多目的化のイメージ

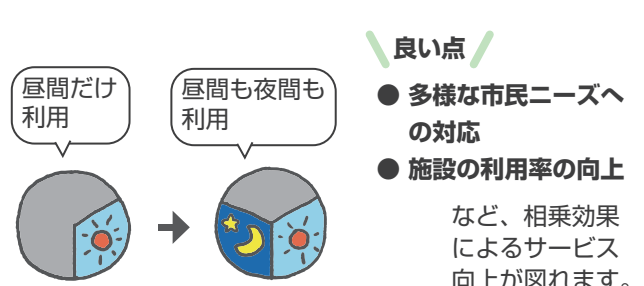
複合化

施設の建て替えなどの際に、**異なる施設を一緒にします**



多目的化

利用しない時間帯や未稼働のスペースを有効に使います

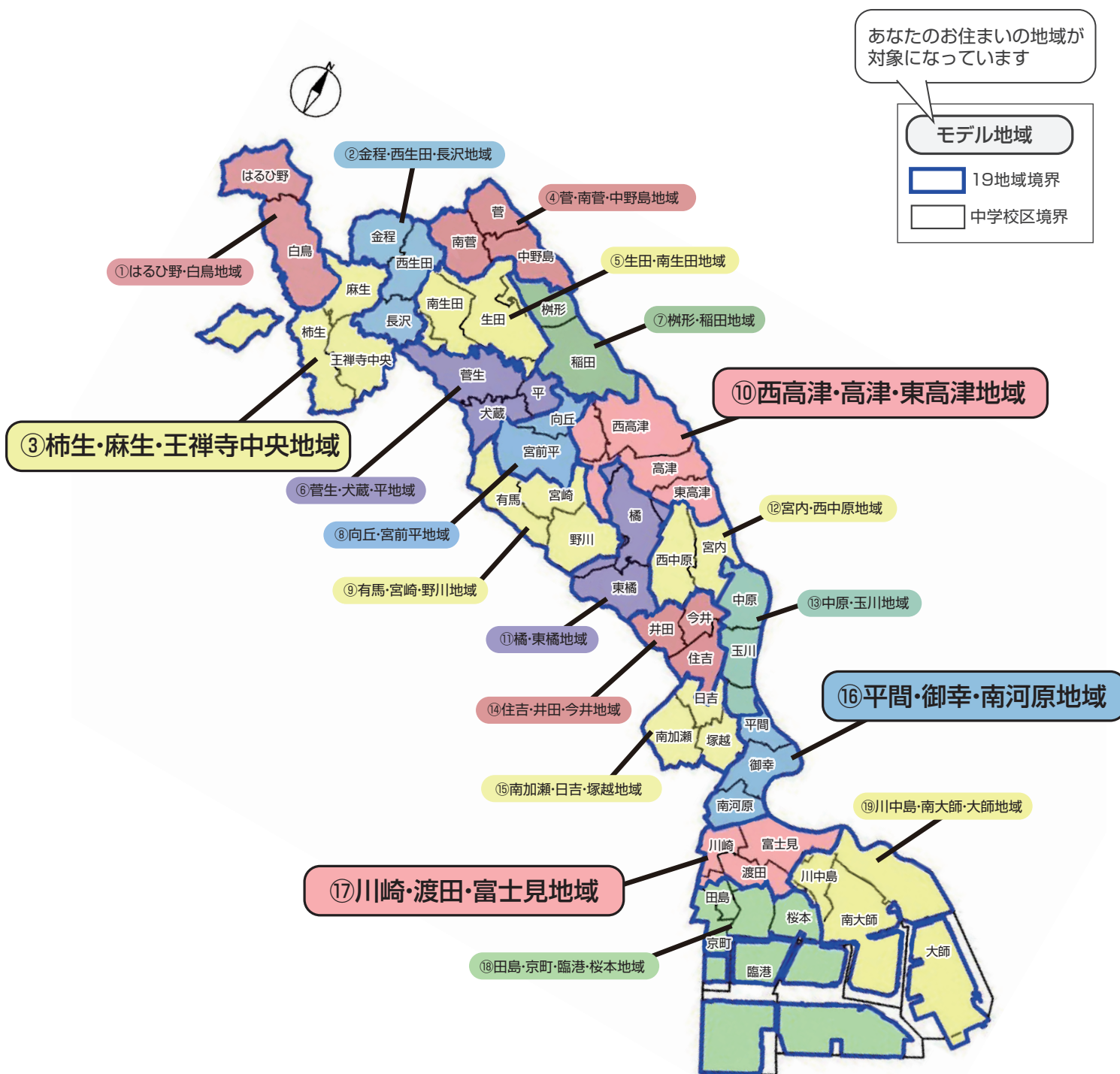


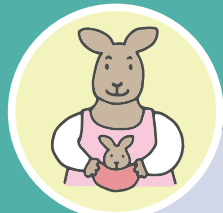


～ 地域ごとの資産保有の最適化について ～

4つのモデル地域を選定して検討

地形、鉄道路線・バス路線の状況、町内会・自治会のエリア等も踏まえ、一旦、**2～4程度の中学校区単位を基本とし、「地域」の仮設定（19地域）**を行いました。19地域の中から、地域の施設の規模・老朽度・利用状況等を基に、**モデル地域4地域の選定を行い、令和5年度から検討を開始**しています。





～ 地域ごとの資産保有の最適化について ～

地域の公共施設の未来を考えるワークショップの概要

市民の皆様と一緒に、**身近な地域の将来像**や、**将来に向けて公共施設に必要な機能**を検討するワークショップを開催しています。

第1回

公共施設の未来体験ゲーム「カワタン」をやってみよう！

令和5年11月～12月開催

「公共施設の未来体験ゲーム（カワタン）」は、施設の老朽化や人口減少を迎える未来で、公共施設をどのように活用していくか、楽しく遊びながら理解を深められる川崎市オリジナルのボードゲームです。

各グループのキャッチフレーズの例

IT化が進み元気なシニアが活躍するまち

多世代がゆるくつながるまち

スポーツでお金もGET！
みんな楽しく元気なカワタン

AI（あい）・AI（エーアイ）で
生涯学習のまち



第2回

魅力的な将来像を実現するための公共施設の使い方を考えよう！

令和6年2月～3月開催

20年後の川崎市に生活する人物（仕事、家族構成、何歳、趣味や日常の行動）をイメージしたカードを選び、その人物の状況（日常の過ごし方、困り事など）を考えました。その人たちがいきいきと暮らしている地域の将来像を出し合い、魅力的な将来像を実現するための公共施設の使い方を考えました。

ペルソナカードの例

PERSONA CARD	
2044年の地域に暮らす人物のイメージ	どんな人
	・ 都内で働く30代会社員で住まいは川崎市内 ・ 趣味は食べ歩き ・ 結婚願望が仕事、忙しく会社と家との往復の毎日。リモートワークもしている ・ 地域活動等には参加していない
地域で何をしたい？ 困っていることは？ (2044年現在)	・ 学生時代の友人とおしゃれなカフェ巡りを楽しんでいる ・ 地域の情報がよくわからない
東京都内の企業で働く会社員	

各グループのまとめの例

集中して勉強・仕事ができるスペースがまちにあることを目指そう

施設数は増やさなくてよいので、利用時間を長くしたり様々な人が使えるように

既存施設をより活用するために、PR強化、企業との連携、多目的化などが大切

様々な世代と一緒に過ごせる、生涯学習の総合的施設のようなものがあると良い





～ 地域ごとの資産保有の最適化について ～

地域の公共施設の未来を考えるワークショップの概要

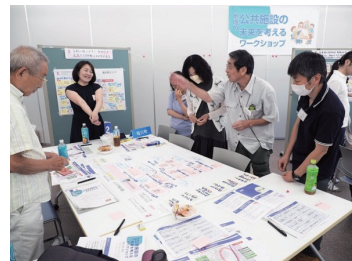
第3・4回

エリアの将来像を考え、公共施設にあったらいいなと思う機能やニーズを考えよう！

令和6年7月～10月開催

エリアの将来像（暮らしやすいまち）を考え、さらにその将来像を実現するために、公共施設にあったらいいなと思う機能やニーズについて意見交換しました。

第3回目と第4回目は、対象エリアを変えて同じ内容で行いました。



意見の例

利用率の低い施設にカフェなどを入れて、気軽に立ち寄れるように

子供向け施設と老人向け施設を一緒にして多世代交流を

仕事帰りでも利用できるよう、夜も開いていると良い

もっと親しみやすいネーミングに

参加者からの声（アンケート結果より）

色々な世代の方の意見を聞けてとても参考になった

施設の老朽化は避けて通れないから、しっかり考えて魅力的なまちにしていきたい

地域の公共施設のことを知る良いきっかけになった

エリアや公共施設についての資料がわかりやすかった



実施内容は川崎市 HP に公開しておりますので、ぜひご覧ください。
<https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000157369.html>

